

自己点検・評価報告書

2025 年 9 月

大阪産業大学

(ア) 入学者選抜

(1). 現状説明

点検・評価項目①：アドミSSION・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえて設定しているか。

本学は、「大阪産業大学 3つのポリシー策定に関するガイドライン」を策定している（資料1）。ガイドラインでは、本学における3つのポリシーの位置づけや策定について示しており、「全学的なポリシー」および「各学科・専攻のポリシー」を策定する際はこれを踏まえることとしている。3つのポリシー策定の基本的な考え方として、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびアドミSSION・ポリシーが順次性・一貫性・関連性を持つこととしている。

現在各学科が策定しているアドミSSION・ポリシー（2025年度入学生向け）は、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえて設定しており、先のガイドラインに則った内容となっている（資料2）。

なお、多くの学科が高等学校までの学びを意識した内容を盛り込んでおり、高大接続を意識したものとなっている。さらに、社会での活躍や貢献を意識した内容を盛り込んでいる学科もあり、卒業後のキャリアを見据えたものとなっている。

点検・評価項目②：アドミSSION・ポリシーに定める求める学生像と選抜方法の紐づけは適切か。

本学は、アドミSSION・ポリシーにおいて、入学前に身に付けている知識・能力または入学後に身に付けることが期待できる知識・能力等を「求める学生像」として示すこととしている（資料1）。また、それぞれの「求める学生像」をどの入試制度で評価するかを表す「選抜方法」という表を作成している（資料2）。

各学科の「選抜方法」に記載されている各入試は、それぞれの入試の特徴から求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」が明確になっており、それらは各学科におけるそれぞれの「求める学生像」と適切に紐づけられている。また、「求める学生像」と「選抜方法」の関連は「◎」や「○」で表しているが、特に関連性の高い（重点的に評価する）入試については各学科が「◎」を付している（資料2）。なお、すべての学科において、「求める学生像」に示す各種能力等がいずれかの入試制度で必ず評価されることとなっており、すべて紐づけられている。

以上により、各学科がアドミSSION・ポリシー（2025年度入学生向け）において定めている「求める学生像」と「選抜方法」の紐づけは適切なものとなっている。

点検・評価項目③：アドミSSION・ポリシーに沿った学生を受け入れているか。

本項目の評価指標は、2024年度より導入している「GPS-Academic」と、以前より実施している「プレイスメントテスト」（高等学校までに教わる基礎・基本的内容に関する学力テスト）を主な指標とした（資料3,4）。この2つの指標に照らした結果、おおむねアドミSSION・ポリシーに沿った学生を受け入れているといえる。特に理系学部においては

「GPS-Academic」における「思考力」や「プレイスメントテスト」のスコアが高い結果となっている。ただし、全学科共通した特徴として、どの入試制度で入学した学生かによ

って結果に大きな開きがある状況である。また、個々の学生によっても大きな差がある。

入試制度別に見ると、「一般」、「大学入学共通テスト」、「公募推薦」入試により入学した学生は「GPS-Academic」における「思考力」や「プレイスメントテスト」のスコアが高い傾向にある。一方、「クラブ」入試により入学した学生は「GPS-Academic」における「姿勢・態度」が高い傾向にある。また、「留学生」入試により入学した学生は、「GPS-Academic」における「姿勢・態度」のうち「レジリエンス（精神的なタフさ）」と「リーダーシップ（物事に向かう前向きさ）」のスコアが高い傾向にある。

それぞれの学科を比較すると、「GPS-Academic」における「思考力」およびプレイスメントテストスコアが科目問わず高い学科や、「GPS-Academic」における「姿勢・態度」がほとんどの入試区分において全国平均を上回る学科があり、それぞれの学科の特徴が見られる。

(2). 長所・特色

今年度開設した情報デザイン学部情報システム学科、建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科、システム工学部システム工学科は、「GPS-Academic」における「思考力」が2024年度の全国平均を上回っており、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力のすべての指標において高い値となっている。さらに、「留学生」入試を除くほとんどの入試制度においても、入学した学生の「思考力」が全国平均を上回る結果となっている。これは、情報デザイン学部情報システム学科や建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科がアドミッション・ポリシーにおいて掲げる論理的思考力を十分に満たしているといえる。

一方、コンピテンシーの項目である「姿勢・態度」「経験」においてはスポーツ健康学部スポーツ健康学科が高い数値となっている。特に、「姿勢・態度」のうちの「リーダーシップ（物事に向かう前向きさ）」と「コラボレーション（他者への働きかけ）」に関しては、どの入試制度においても全国平均を上回る数値となっている。これらの結果は、高等学校までに培われた経験や、学生自身の志向性が影響していると考えられる。

(3). 問題点

なし

(4). 全体のまとめ

本学は、2015年度の機関別認証評価（大学評価）で「3つのポリシー」の内容に関して指摘を受けたことや、2016年3月31日に「3つのポリシー」の策定及び運用に関するガイドラインが中央教育審議会大学分科会大学教育部会から示された（中教審ガイドライン）ことなどを契機に「3つのポリシー」の全学的な見直しを行った（資料5,6）。見直しにあたっては、先のガイドラインに基づき、「3つのポリシー」の策定指針を学内に示し、現在は「大阪産業大学3つのポリシー策定に関するガイドライン」という形で学内に示し、運用している（資料1）。学部学科再編等の機会に各学部学科・研究科専攻がポリシーの改定を行う際は、このガイドラインに基づいて行うようになっている。「現状説明」で述べたとおり、現在各学科が策定しているアドミッション・ポリシー（2025年度入学生向

け)は、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえて設定されている。

先の「中教審ガイドライン」では、アドミッション・ポリシーを具現化するための評価方法をどの程度の比重で扱うのか具体的に示すことが述べられている。本学は、それを「選抜方法」という表で「求める学生像」と「入試名称」の対応関係を整理している。この対応関係についても各学部学科・研究科専攻で精査して作成しており、各学科においては適切な紐づけを行っている。また、必要に応じて更新している。

このように、本学は各学科・専攻ごとに3つのポリシーを策定し、教育活動を行っているが、近年は教育改善に繋げるため、ポリシーの達成度を把握・評価する取り組みに力を入れている。そのうち、アドミッション・ポリシーについては様々な指標で達成度を把握・評価することができるが、今年度の自己点検・評価においては2024年度より導入している「GPS-Academic」と、以前より行っている「プレイスメントテスト」により測ることとした(資料3,4)。両方ともに、学科や入試制度により特徴が見られる結果となっている。また、学生によって知識や能力に大きな開きはあるが、概ね各学科が掲げる「求める学生像」に沿った学生を受け入れることができている。

大学進学率が50%を超える「ユニバーサル・アクセス」の時代において、入学者の多様化が進んでいる。また、少子化が進むなか、本学は入学者を確保することが厳しいこともあり、年々広いレンジで合格判定を出すようになってきている。こういった状況のなか、各学部学科が養成する学生像を明確にし、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関連を明確にしたアドミッション・ポリシーに基づいて多様な学生を受け入れていくことが今後より重要となってくる。

参考資料

- (資料1) 大阪産業大学 3つのポリシー策定に関するガイドライン
- (資料2) 教育目標・3つのポリシー
- (資料3) GPS-Academic とは
- (資料4) 【入学予定の皆様】プレイスメントテスト受験のご案内
- (資料5) 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) 及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン
- (資料6) 2016年5月教学マネジメント委員会資料(抜粋)

各種データ

◇GPS-Academic

- [国際学部国際学科]
- [スポーツ健康学部スポーツ健康学科]
- [経営学部経営学科]
- [経営学部商学科]
- [経済学部]
- [情報デザイン学部情報システム学科]
- [建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科]
- [システム工学部システム工学科]

◇プレイスメントテスト

[国際学部国際学科]

[スポーツ健康学部スポーツ健康学科]

[経営学部経営学科]

[経営学部商学科]

[経済学部]

[情報デザイン学部情報システム学科]

[建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科]

[システム工学部システム工学科]

(イ) 学修成果

(1). 現状説明

点検・評価項目④：ディプロマ・ポリシーに照らした教育評価基準一覧表（2025年度自己点検・評価用）において設定している指標は適切か。

本学は、「学生の学修成果の把握および評価と、その結果を活用した教育評価・改善」を主な目的として、2021年度に大学全体と学科ごとの「ディプロマ・ポリシーに照らした教育評価基準一覧表」（以下、一覧表）を作成している。各学科の一覧表においては、特定の授業におけるGPAの分布状況、外部団体の学生調査、大学独自の学生アンケートなどを指標として設定しており、各学科の学位プログラムにおいて必要な資質・能力を測るものとなっており、適切である（資料1~7）。

点検・評価項目⑤：ディプロマ・ポリシーに照らした教育評価基準一覧表（2025年度自己点検・評価用）において設定している基準は適切か。

各学科が「ディプロマ・ポリシーに照らした教育評価基準一覧表」において設定している各指標の基準は概ね適切であるが、今後、学科の目的や状況等を踏まえて基準が適切であるか定期的に見直す必要がある。

点検・評価項目⑥：ディプロマ・ポリシーに定める学修目標を達成できているか。

「ディプロマ・ポリシーに照らした教育評価基準一覧表」に設定している多くの指標・基準を満たしている学科においては学修目標を達成できているといえる。ただし、基準を満たすことができていない学科もあり、今後教育の改善・向上が必要である。特に、総合教育科目のGPAが相対的に低い学部学科があり、教育活動の質向上に努める必要がある。

(2). 長所・特色

なし

(3). 問題点

なし

(4). 全体のまとめ

昨今の高等教育においては、大学が社会における役割を果たし、それを社会に対して証明していくことが求められている。そのためには、客観的な根拠に基づく教育の質保証・向上に取り組むことが重要であり、本学は、学生が「何を学び、身に付けることができたのか」（学修成果）を把握・評価し、それに基づく教育活動の改善・向上に取り組み、その状況を学内外へ公表していく必要がある。この、「学修成果の把握・評価」に向けた取り組みとして、本学は2021年度に大学全体と学科ごとの「ディプロマ・ポリシーに照らした教育評価基準一覧表」（以下、一覧表）を作成している。しかし、一覧表の作成以降、実質的な運用には至っておらず、今年度の自己点検・評価に用いた次第である。

一覧表の指標に関しては、それぞれの学科のディプロマ・ポリシーに照らして重要となる科目のGPA平均や、大学IRコンソーシアムの学生調査や卒業時アンケートなど客観

データと主観データをバランスよく設定できている（資料 1～7）。さらに、ストレート卒業率や離学率といったすべてのディプロマ・ポリシーに紐づく指標も設定している。

一覧表の基準に関しては、ほとんどの基準を満たすことができている学科、満たせていないものの方が多い学科、半分程度の基準を満たしている学科と様々である。一覧表の作成以降、指標や基準を見直す機会を設けていなかったため、今後は入学者の特徴や学科の状況等を踏まえて適当な基準値を検討する必要がある。

今後は、この一覧表をカリキュラム評価等で定期的に運用する仕組みを作るなど、実質的な取り組みに繋げていく必要がある。また、一覧表に記載している「入学年度別 指標・基準に基づく実績値」をより良好な状態（基準を満たす、または基準値に近づける）にするには、個々の授業の質向上やカリキュラムの見直し、FD・SD 活動の推進といった教育組織だけの取り組みにとどまらず、学生支援部署を中心とした事務部署の取り組みや全学的な取り組みといった大学全体で尽力することが必要不可欠である。

参考資料

- （資料 1）大学 IR コンソーシアム学生調査
- （資料 2）学修成果に関する調査の結果公表について
- （資料 3）大学 IR コンソーシアム学生調査 回答率一覧（2020 年度～2023 年度）
- （資料 4）卒業時アンケート
- （資料 5）卒業時アンケート（回答様式）
- （資料 6）2024 年度卒業生満足度調査（大学全体の満足度は 21 ページ目参照）
- （資料 7）2023 年度卒業生満足度調査（大学全体の満足度は 20 ページ目参照）

データ

◇ディプロマ・ポリシーに照らした教育評価基準一覧表

- [国際学部国際学科]
- [スポーツ健康学部スポーツ健康学科]
- [経営学部経営学科]
- [経営学部商学科]
- [経済学部経済学科]
- [経済学部国際経済学科]